

すが、とても狭く、窓も無く、換気も十分とは言えません。

そこで新年度からの通常例会は、公民館、文化センターといった環境が整った公共の施設を借りてのジブシー開催となりました。毎回会場が変わるので、会場確保に苦労しました。それをずっと続けるのは経費的にも負担がかかります。そこで理事会で、コロナ感染症防止に対応した会館への改装を検討し、35年振りに改装工事を計画、12月に完了しました。

掛かった改装費用は会員のスマイル等による心温まる寄付で賄うことが出来ました。

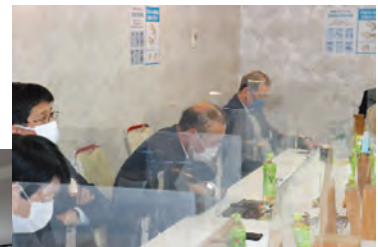
改装のポイントは、①換気扇の増設、②内壁の張替え、③間隔を空けた席の配置、④隣席との間と前面に飛沫防止パネルの設置 等々です。改装により新年1月からコロナ感染拡大以前の通り、毎週ロータリー会館で例会を開催しています。



【改装前】



【改装後】



↑《パネル》

### 3. 『第23回英語スピーチコンテスト』開催について

今年度はコロナ感染の影響で、恒例になっている対外事業の中止が続きました。

その中で、今年で23回を迎えた『英語スピーチコンテスト』は、青少年奉仕委員会を中心に、真庭市教育委員会、市内中学校・高校の協力をいただき開催出来ました。

コロナ対策として、①受付時の検温、②手指の消毒、③マスク着用、④一般聴講者の連絡先確認リスト作成、⑤密を避ける椅子の配置、⑥頻繁な休憩と換気、⑦感染防止啓発ポスター、⑧スピーチのたびにマイクの消毒等、コロナ感染対策を取っての開催でした。これには、地区大会での感染予防対策が大いに参考になりました。

コンテスト当日、津山朝日新聞の記者が取材に来られ、翌日の新聞コラム『東西南北』に掲載された文章を読んで、開催できて良かったと関係者のみんな喜び合いました。まさに今年度の記憶に残る事業となりました。

今後もコロナ患者は増えたり減ったりを繰り返すことでしょう。ワクチンが各国で認可されていますが、一般に普及するにはもう少し時間が掛かると思われます。

その時その時の最善を考えながら、与えられた残りの期間、真庭クラブの仲間と共にロータリー活動が続ける所存です。





## 「新型コロナ時代の新たな日常」と ロータリー活動について

2020-21年度 美作ロータリークラブ  
会長 中山道雄

私たちの美作ロータリークラブは、昨年度4月5月の2か月間休会となり、今年度は10月下旬から現在まで1回しか例会ができていません。その間は月に一回理事・役員会を開催し、次年度の予定等を決めています。もしこの状態が継続するとすれば、ロータリークラブの活動どころではなく、月に一度程度の食事なしの会合で済ませるような方法も検討しなければなりません。当然そうなれば人を集めるような事業も実施できないのではないのでしょうか。ロータリークラブの目的の一つである親睦や友情を深めるといったことをこのようなやり方で達成することは困難です。

職業奉仕という面で考えれば、自分の仕事を通じて社会に貢献するという事なので、今は精一杯自身の仕事を見直し、社会に役に立つ仕事になるよう努力をする時期なのかもしれません。

やはり現在とるべき考え方としては、一刻も早くコロナが終息し、元のような形の例会や事業が復活できるように、今は自粛しコロナが拡散しないように例会や会食を控える時期だと思います。次年度がスムーズにスタートできるように今は我慢の時だと思います。

例会が再開できた後ももちろん、ソーシャルディスタンスをとったり、消毒・手洗い・マスク等は当分の間は継続しなくてはならないでしょう。また会議も書面で済むことはFAXやメールで済ませたり、Zoomやスカイプといったインターネットの利用なども増えてゆくことでしょう。

会社に通勤して仕事をするという生活も大きく変化し減少することは確実です。ロータリークラブの運営方法も長期的には大きな変化が起こると思います。しかし、人と人が会って食事をしたり旅行をしたりというふれあいの価値は無くならないと思いますので、そのことを罪悪視するような風潮や感染した人を非難するといったことにはロータリアンとして絶対に反対してはなりませんし、社会の公平公正が保たれるよう自分自身を律する必要があります。そして、社会的に困窮しているひとたちを援助したり、お店を応援するといった活動も今後やっていかななくてはならないのではないのでしょうか。

とにかく現在はコロナを早く収束させるために自分のできることをやっていくしかありません。



## 津山ロータリークラブにおける 新型コロナウイルスへの対応について

2020-21年度 津山ロータリークラブ

幹事 飯網 浩二



須江会長

津山ロータリークラブは、昨年度(2019-20)4月10日から5月29日まで、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」と言います。)によって例会を休会せざるを得ない状況で、今年度(2020-21)の予算編成を行いました。須江英典会長は、会費は会員自身にとっては多額とまでは言えないものの、会員には経営者も多く、従業員の皆様にコロナで不自由を強いている中で、経営者が会費を支払ってロータリークラブの例会に参加することを躊躇し、退会を申し出る会員が現れるのではないかと、強い危惧を抱きました。当クラブでは、スマイルBOXの積立金から、55周年や60周年といった周年記念事業に支出を行っていましたが、その残額について、2年前の理事会で、毎年50万円をクラブ会計に組み入れ、クラブ奉仕委員会の事業を行うと決めていました。しかしながら、須江会長は、コロナという有事にあたっては平時の方針を切り替えることも必要であると考えました。そこで、今年度は、50万円に加えて、更にスマイルBOXの積立金の一部をクラブ会計に組み入れることによって、会費の納入を求めないとするのはできないか、検討を行いました。理事会で議論を重ね、昨年度の例会休会の影響による繰越金の増加を考慮しても、一年分の会費の納入を求めなければ、『扉を開いて 楽しいロータリーを!』のスローガンのもとコロナ禍においてもできるだけ積極的に例会や奉仕活動を行いたいとのクラブ方針の実現が困難になるとの判断から、「上半期の会費の納入を求めない」とする予算案を理事会で決議し、総会でも須江会長の熱い思いを説明し、可決に至りました。結果として、コロナを理由とする退会者は一人もいません。

また、スマイルBOX積立金からの今年度分の50万円組入れについて、クラブ奉仕委員会と社会奉仕委員会のコロナ対策合同事業として、津山市教育委員会から希望を伺った上で、会員企業の協力を得て、津山市内の全小中学校に、液体石けんと消毒液を寄付させていただきました。

今年度は、現在までの夜間懇親会を全て中止し、11月の例会を休会とし、12月以降は座席を向かい合わせではなくスクール形式にして例会を行い、1月15日から3月5日(予定)までは食事なしで例会を行うなど、例年にはないクラブ運営を強いられています。中間決算時点では、スマイルBOX積立金から50万円を超えて組み入れなくても運営できたという状況になっています。

須江会長としては、菊池捷男ガバナーが地区大会を成功させたことに感銘を受け、できる限り例会を行いたいとの強い思いはありますが、地域経済を牽引する会員が多く在籍するクラブの責任として、断腸の思いで慎重なクラブ運営を行っています。



津山市教育委員会への贈呈  
(液体石けんと消毒液を寄付)



## 「新型コロナ時代の新たな日常」と ロータリー活動について

2020-21年度 津山西ロータリークラブ  
幹事 佐藤 みゆき

津山西ロータリークラブとしての取り組みですが、元々私どものクラブは現役の若い会員及び零細企業の経営者に配慮するために例会の回数を3回程度と決めておりましたが、新型コロナ対策として12月度の例会を2回に変更し、会食を中止にしたことで「マスクの着用」「三密を避ける事」に徹底させて頂きました。また例会場の変更で会員間の距離を適切に取り、食事もお弁当に変更するなどし、基本的な感染対策の徹底等を行いました。

1月度は通常に戻し例会場もホテルに移動させて頂き、ホテル側の配慮もあり基本的な感染対策を図り、会員同士各々で互いに意識と智慧を共有しての通常例会を開催させて頂きました。食事の間は会話厳禁で静かな昼食会を徹底させて頂きました。津山西ロータリークラブでは、年間行事として家族同伴旅行と12月のクリスマス例会は、残念でしたが中止させて頂きました。

以上が、津山西ロータリークラブでの新型コロナウイルス感染防止対策の基本的な取り組みでございます。

最後に、今回の新型コロナウイルス感染症に対する社会不安に加え、テレワークの移行や外出自粛が強く求められた結果、経済・家庭で多くの方が問題を抱え精神的に人は不安定になりやすい状況にあるといえます。

ニューノーマルな時代を迎え困難を乗り越え、前向きな力へと変えていく場所が、例会というセレモニーの場でもありました。更に今後も仲間の友情と親睦を深め、困難な時代を乗り越える力となるクラブとなり、更なる倫理・道徳を提唱するとともに、今後も人づくり・街づくりに貢献できる津山西ロータリークラブとして目的にひたすら向かい、奉仕の理想を追求し、走り続けて行きますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



## 「新型コロナ時代の新たな日常」と ロータリー活動

2020-21年度 津山中央ロータリークラブ  
幹事 有本 次男

今年度の第8・第9グループ合同インターシティ・ミーティング(IM)は、岡山後樂園RCがホスト、我が津山中央RCがコ・ホストで開催する予定で準備も進めておりました。新型コロナの影響により、ほとんどの合同の実行委員会はリモートで行われました。岡山後樂園ロータリークラブの皆様方には会議を含め、開催に向けての全ての準備の面で大変お世話になり、本当にありがとうございました。幾度も調整を重ね、開催の是非を検討してまいった結果、今年度は残念ながら開催が不可能となり、『紙面IM』の形態での実施となった次第です。

さて、昨年度下半期に入り、突如世界中を不安と恐怖に陥れた「新型コロナウイルス」の感染拡大ですが、我々ロータリアンの日常にももれなく降りかかりました。クラブ運営や様々な奉仕活動を如何に行っていけばよいのか、近隣クラブの様子も聞きながら恐る恐る手探りで進めてまいりました。

我がクラブは会員数14名(下半期15名)と、大変小さなクラブですから、例会場の設営に配慮して、席と席の間隔を広く取り、もちろん消毒・マスク着用は必須条件として通常例会をスタートさせました。

しかし、感染拡大は全国に広がりを見せていった



地区補助金利用事業風景



地区補助金利用事業風景

ため、我がクラブも臨時理事会を幾度も開催し、情報収集と状況判断に努めてまいりました。

先にもお話ししましたが、我がクラブは会員数が少ない分、パートナーが共に参加する例会を多く開催しています。残念ですが、今年はパートナーはお呼びすることはできませんでした。

また、津山中央RCは毎年、地区補助金を活用させていただき事業をしています。今年も昨年度から準備を進め、協働する子供達にも声をかけ実行日を待っておりましたが、こちらも辞退したいとの連絡を頂き、地区ロータリー財団事務所に計画の変更申請をし、クラブ会員のみでの実施となりました。コロナウイルス感染拡大の状況によってはこの事業もできるのか・・・と一瞬不安がよぎりましたが、屋外の公園への桜の植樹事業であったため、11月14日に何とか実施すること

ができました。

しかし実は、秋頃は感染が広がりつつあったため、通常例会は11月、12月はほとんど開催できませんでした。本来ならば楽しい「クリスマス家族例会」ももちろん取りやめ、各委員長の中間事業報告をいたしました。

我がクラブの外交のメイン事業の一つに、「高知中央RC・米子中央RC・津山中央RC」という太平洋～日本海までを結ぶ3つの中央ロータリークラブの交流があります。季節によって、釣り・ゴルフ・花見などを楽しみ、また、各クラブの周年式典には駆けつけるなど非常に友好的な交流ができています。特に春の花見シーズンには高知と米子からこの津山・鶴山公園に集い、桜の木の下で大いに語り合うことを恒例行事としてきました。しかし、昨年度は中止せざるを得ない状況下であり、今年こそは・・・と思っておりましたが、やはり県外からロータリアンのお客様をご招待することは大変困難と考え、もうすでに中止の連絡をいたしました。

第8グループでは毎年1～2月頃に5クラブが持ち回りで「合同懇親会」を開催して親交を深めています。今年度の世話クラブは真庭RCさんで、開催に向けて準備をしていただいたのですが、こちらも残念ながら中止となってしまいました。

一日も早い収束を願いつつ、安全な例会運営をいかにするか、また、会員の士気が下がらないようにどのように発信し続けるか、まだしばらくは、難しい舵取りが続きますが、全ロータリアンの皆様と手を携えてロータリー活動に励みたいと思います。



## 「新型コロナ時代の新たな日常」と ロータリー活動

2020-21年度 備前ロータリークラブ  
会長 中村 誠志

新型コロナウイルス感染症が、中国の武漢を発端に日本を含む世界中で蔓延し始めてからちょうど一年になります。この間、このウイルスは観光や交通、飲食などあらゆる面から経済に打撃を与え続け、今もお11都府県には、緊急事態宣言が出されているような状況です。2月に入って東京都や岡山県下もいくらかは感染者数が減少傾向にあるようですが、日常どおりになるにはまだまだ時間がかかると思われます。

ロータリー活動においても、PETSをはじめIMなどの各種研修会が取り止め若しくは規模を縮小しての開催となり、備前ロータリークラブでも、昨年度は3月から5月までの例会が取り止めになりました。

本年度も、9月の岡山東、丸ノ内ロータリークラブとの合同夜間例会や、12月のクリスマス家族例会、5月の姉妹クラブである出雲南ロータリークラブとの合同例会、そして通常例会も緊急事態宣言の間は取り止めとなりました。例会が開催されている期間には、会員間でマスク、手洗いなどの感染対策の徹底を共有し、体調のすぐれないときは欠席できるよう、コロナウイルス感染症出席規定免除の取り決めをしました。

また、長期間の例会の取り止めで懸念されることは、会員のロータリー活動に対するモチベーションが低下することです。対策になるかどうかは分かりませんが、広報委員会で備前ロータリークラブのユーチューブ専用チャンネルを作成し、有志の会員に投稿してもらって試験動画に取り組んでいただきました。

私としましては、例会や委員会、事業などを通して親睦を深めることによって、「お互いを認め合い団結」していきましようということで7月からやってきていて、出来ることなら例会や委員会などを開催したいのですが、そのことによって会員からコロナウイルス感染者を出すことがあってはならないし、非常に厳しい状況だと思っています。

今のところ、3月になり緊急事態宣言が解除されたら例会を再開する予定です。しかし宣言が解除されたからといって、不要不急の外出や接触をなるべく控えなければならない状況は当分続くだろうと思います。

このような状況の中で例会を開催するには、例会場での感染対策を今以上に嚴重にすることと、何よりも会員一人一人がコロナウイルス感染症にかからないよう、細心の注意を払うことが必要です。

例会が再開されても、事業の中止などから例会内容を考え直さなければなりません。気付いたら、本年度も残りがだんだん少なくなってきています。

備前ロータリークラブは、次年度に創立50周年を迎えます。50年の長きに渡って、その時々を会長を始めとする会員のみなさんが、色々な「困難」を乗り越えて親睦を深め現在に至っているのだらうと思います。

今のこの「困難」も会員同士知恵を出しあいながら乗り越えていきたいですし、残りの数か月で会員みなさまの協力をいただきながら、少しでも次年度に向けて機運を高められるような例会に出来たらと思います。

また例会が再開されたら、あらためて会員同志が集まって親睦を深めることの意義と、ありがたさを共有したいと思います。



## 牛窓海岸清掃報告書

2020-21年度 岡山ロータリークラブ

環境保全委員長 丹下 健三

本年度、原会長の岡山ロータリークラブの活動方針「環境問題を考える」。

環境保全委員会では、今までの概念を改め、柔軟に考え身近な生活から、メンバーの皆様が環境問題を考える場、機会として牛窓海岸の清掃を企画しました。

まず、7月中旬、現地の牛窓海岸と瀬戸内市観光協会へ訪問し協会の職員の方に現状をお聞きしました。毎年梅雨以降は多くの漂流物が海岸へたどり着きます。当日の漂流物の量ぐらひは平年並みとのことでした。私自身この時期の海岸は初めてであり、こんなにも海ゴミが多いとは思いませんでした。写真ではなかなか実感は伝わらないと思います。この度の目的であるプラスチックごみを海岸で探しました。大きいサイズでは、漁具(網、発砲スチロール製浮きなど)小さく軽いものは(食品包装類、釣り糸、漁具の備品プラスチックなど)そして、劣化した1cm以下のプラスチックでした。

初めての企画で、どのようにマイクロプラスチックを回収し、どんな形でメンバーにお伝えできるのか、委員会のメンバーそして、会長へご相談しました。回収については、フルイとスコップを何個か用意し、砂とマイクロプラスチックに分け選別する。そうすることで、メンバーが体験でき、環境への関心が深まるのではないかと決めました。

2020年11月1日(日)9時30分より11時まで、参加人数総勢65名(ロータリーメンバー58名、ご家族4名、ローターアクト5名)で行いました。日曜日の9時10分に集合予定でしたが、「思ったより早く着いた」とメンバーの方々が開始30分前には続々と到着しました。あるメンバーから「時間もったいないから海岸調査清掃をしても良いですか？」と質問があり、時間前ですが行動していただきました。ロータリーメンバーの意識の高さを感じました。

好天に恵まれ、開始時刻の9時30分、海岸に広がったメンバーに再度集まっていたいただき、原会長の挨拶をいただきました。挨拶の中で「砂の中に細かいプラスチックがあります。今回の清掃を通して環境問題を考えていただきたい」と本事業のテーマを参加メンバーに強くお願いをしていただきました。参加メンバーは3グループに分かれ、フルイを使い砂からプラスチックを取りだす掃除をお願いしました。海岸には多くの木材などの残骸が打ち上げられていました。作業はまずその除去。そして、黙々と砂を掘り起こし10円玉以下のプラスチックを探し、拾い集める作業を1時間以上しました。



7月中旬、現地調査写真



作業中メンバーに感想を聞きました。「来たときは、ゴミがないと感じたが、下をじっくり見ると、たくさんある。びっくりしている。」ローターアクトメンバーは「掘り起こせば、すぐ出てくる。きりがいいな。漁具の備品、釣り糸、発砲スチロールの小さなやつ。」参加者は同様な気持ちで清掃されたと思います。

回収したごみの量は、木材などの漂流物が25袋、マイクロプラスチックは、45Lが2袋でした。マイクロプラスチックについては1個が10円玉ほどの大きさですから大変な量と感じました。

作業終了後、会長の閉会挨拶は「今回の清掃で皆様の意識が変わったと確信しています。」と言われると参加者から大きな拍手が湧きました。この拍手で会員の皆様に環境問題を考えて生活していただくことができたのではと確信しました。

最後になりましたが、準備など不手際あったことと思いますが、皆様にご協力いただき無事終了いたしました。感謝申し上げます。



清掃中



ゴミの量 材木25袋  
マイクロプラスチック 45L入2袋



マイクロプラスチックの種類(一部)



清掃中



全体写真



## 「新型コロナ時代の新たな日常」と ロータリー活動

2020-21年度 岡山東ロータリークラブ

青少年奉仕委員長 平井 真也

本年度、岡山東ロータリークラブ諸國眞太郎会長は、運営方針として「一心(いっしん)、心をひとつにして奉仕しよう」と掲げられました。自身の職業奉仕だけでは何か物足りない欲求を世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために心をひとつにして奉仕という形で行動できるクラブを目指すと申されました。

今なお、コロナ禍という大変厳しい環境下の中にあり、日々の例会活動においてはクラブ内で作成したガイドラインをもとに体調管理を会員一同で共有し、会場内でのソーシャルディスタンス、マスクの完全装着を維持しながら、可能な限り例会開催を実行することで会員同士の親睦を図り、より強いクラブとして活動を進めているところでございます。

それでは奉仕活動の事例をご紹介します。

2020年12月24日に社会奉仕委員会と青少年奉仕委員会の合同事業として「希望の花火打ち上げ～子どもたちの笑顔のために～」を実施しました。コロナ禍の中、集客を避けるために事前告知を控え、サプライズ事業としてコロナウイルスの早期終息を祈願し、また医療従事者の方々への感謝を贈るとともに、子どもたちや地域の人々に希望と元気が届けられるようにと願い実施いたしました。また、打ち上げがクリスマスイヴの日となり、諸国会長よりいいクリスマスプレゼントが届けられたらとの想いも込められていました。

SNSを用いての事後発信にて各方面より反響をいただき、今できることの形を表現することで我々の活動が地域の方々に理解され、より身近に感じていただけたように思われました。

2021年2月4日に青少年奉仕委員会事業として「次世代の起業家創出応援プロジェクト」を実施いたしました。こちらは昨年開催された「岡山イノベーションコンテスト2020」大会を職業奉仕委員会の事業として視察をした際に、次代を担う元気溢れる高校生にスポットをあて現代の青少年達の多様なニーズを認識し、今の時代に何が求められているのか、次世代に何が必要かを共有することで我々自身も学びの場とし、また生徒皆さんの夢実現に向けての応援、支援をすることを目的として実施いたしました。コロナ禍の中、ビジネスにおいては少し暗い話題が先行する中、未来を見据え明るい希望に満ちた青少年たちのために先導者として牽引していければと思っております。本来であれば、例会内にて表彰式を設けてコンテスト当日のプレゼンを会員一同の前で披露いただくところではありましたが、当クラブもコロナウイルス感染拡大防止につき、例会取消の状況にあるため、理事および役員のみで表彰式を執り行い、生徒皆さんを次へのステージに進むべく橋渡しが出来よう、継続的に岡山東ロータリークラブらしく係わって